

2013年12月11日 全5頁

Indicators Update

10月機械受注

製造業は6ヶ月ぶりの減少も非製造業が全体を押し上げ

経済調査部
エコノミスト 久後 翔太郎

[要約]

- 2013年10月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+0.6%と2ヶ月ぶりに増加し、概ね市場コンセンサス（同+0.7%）通りの結果となった。
- 需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比▲0.2%と6ヶ月ぶりの減少となった。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+11.5%と2ヶ月ぶりに増加した。
- 外需は前月比▲16.0%と4ヶ月ぶりの減少となった。ただし、3ヶ月移動平均値で見ると、3ヶ月連続の増加となっていることから、増加基調は続いている。
- 内閣府公表の10-12月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比▲2.1%と3四半期ぶりの減少が見込まれているが、この数字は11月と12月にそれぞれ前月比▲3.0%の減少となっても達成可能である。また、11月と12月にそれぞれ前月比▲0.9%の減少となった場合でも、3四半期連続の増加となる。大和総研では、10-12月期の機械受注は3四半期連続の増加となる可能性が高いとみている。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年		2013年									
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
民需（船電を除く）	3.8	▲1.3	▲7.5	4.2	14.2	▲8.8	10.5	▲2.7	▲0.0	5.4	▲2.1	0.6
コンセンサス												0.7
DIR予想												0.7
製造業	1.8	1.0	▲10.0	4.9	13.3	▲7.3	3.8	2.4	4.8	0.8	4.1	▲0.2
非製造業（船電を除く）	6.4	▲7.8	▲4.5	0.3	14.3	▲6.0	25.4	▲17.5	0.0	6.2	▲7.0	11.5
外需	11.8	▲8.3	▲3.7	1.0	52.1	▲19.9	10.3	▲16.7	1.4	22.4	12.1	▲16.0

（注）コンセンサスはBloomberg。
（出所）内閣府統計、Bloombergより大和総研作成

10月の機械受注は2ヶ月ぶりの増加

2013年10月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+0.6%と2ヶ月ぶりに増加し、概ね市場コンセンサス（同+0.7%）通りの結果となった。機械受注は増加が続いている。

製造業は6ヶ月ぶりの減少も非製造業が全体を押し上げ

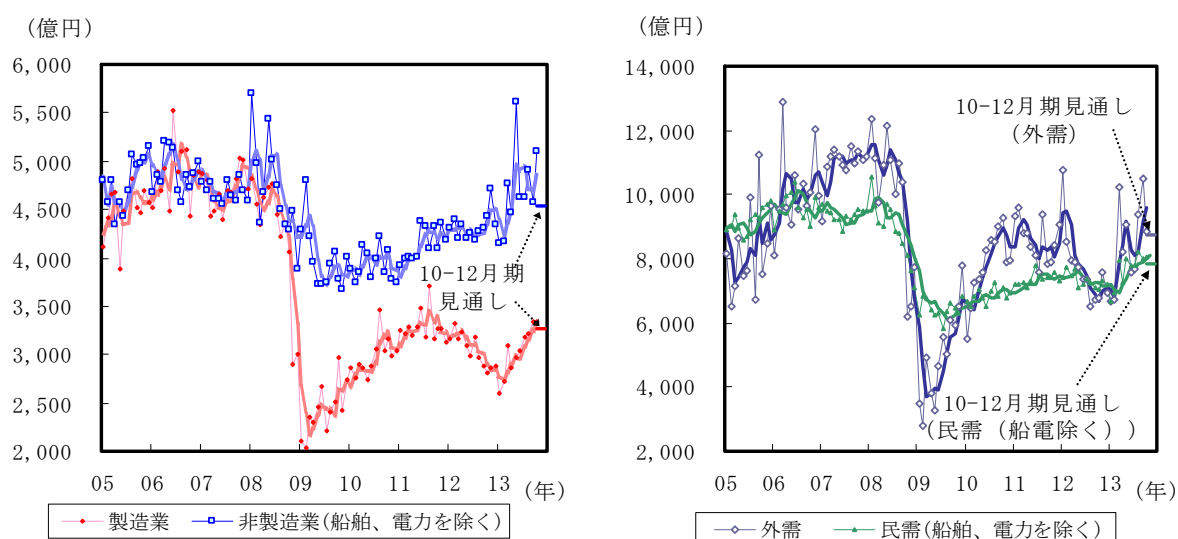
需要者別に内訳を見ると、製造業は前月比▲0.2%と6ヶ月ぶりの減少となった。ただし、均して見れば、増加基調は継続しており、一時的な減少にすぎないとみている。

製造業で前月から減少した業種を見ると、「石油製品・石炭製品」が前月比▲72.9%と2ヶ月連続で2桁の減少となり、水準としても過去最低となった。前月大幅に増加した「パルプ・紙・紙加工品」は前月比▲8.4%となった。「情報通信機械」は前月比▲40.7%と減少した。ただし、8月（同+32.1%）と9月（同+33.7%）に2ヶ月連続で2桁増加となっており、一時的な弱含みであると捉えている。一方、前月から増加した業種を見ると、「化学工業」は前月比+12.3%と3ヶ月連続で2桁の増加となっており、良好な結果となった。また、「電気機械」が前月比+29.2%、「自動車・同付属品」が同+15.9%、「一般機械」が同+4.4%と増加した。

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+11.5%と2ヶ月ぶりの増加となり、改善が続いている。

「金融業・保険業」が前月比+74.8%、「建設業」が同+62.5%、「運輸業・郵便業」が同+9.9%と増加したことが全体を押し上げた。ただし、「情報サービス業」は前月比▲9.2%と3ヶ月連続で減少した。

図表2：需要者別機械受注



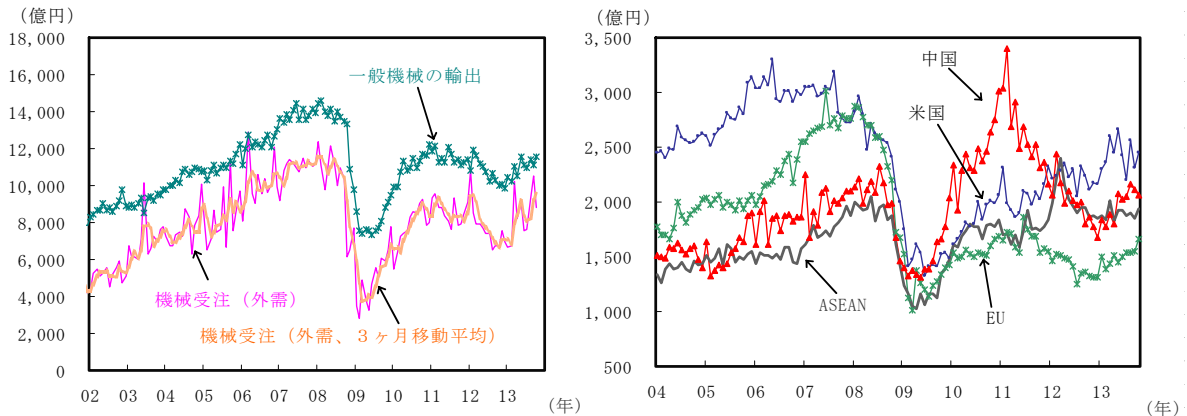
(注) 太線は3ヶ月移動平均線。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

外需は4ヶ月ぶりの減少

外需は前月比▲16.0%と4ヶ月ぶりの減少となった。ただし、3ヶ月移動平均値で見ると、3ヶ月連続の増加となっていることから、増加基調は続いている。貿易統計の一般機械輸出の動向を見ると、EU向けや中国向けで改善が続いており、今後も改善が続くと見ていることから、機械受注の外需も堅調な推移が続く見込みである。

図表3：一般機械の輸出と機械受注の外需 図表4：一般機械の輸出金額（主要国・地域）

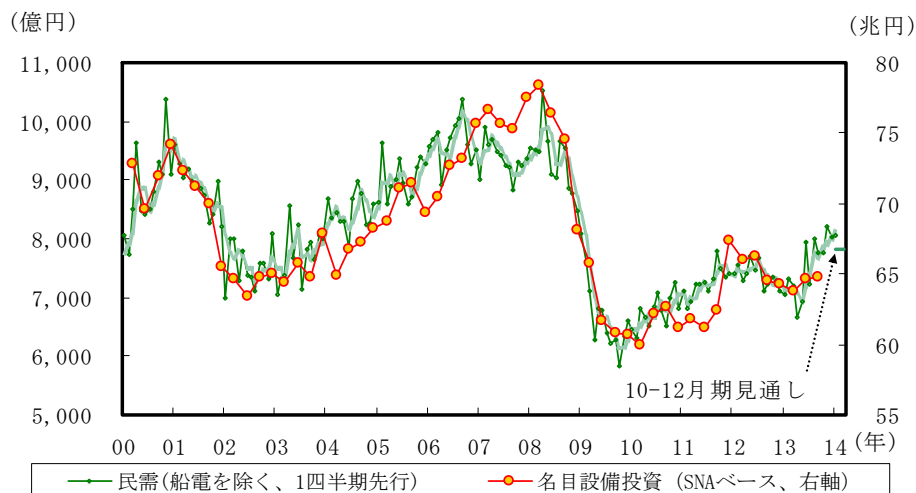


(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

10-12月期の機械受注は3四半期連続の増加となる可能性が高い

内閣府公表の10-12月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比▲2.1%と3四半期ぶりの減少が見込まれているが、この数字は11月と12月にそれぞれ前月比▲3.0%の減少となっても達成可能である。また、11月と12月にそれぞれ前月比▲0.9%の減少となった場合でも、3四半期連続の増加となる。大和総研では、10-12月期の機械受注は3四半期連続の増加となる可能性が高いとみている。

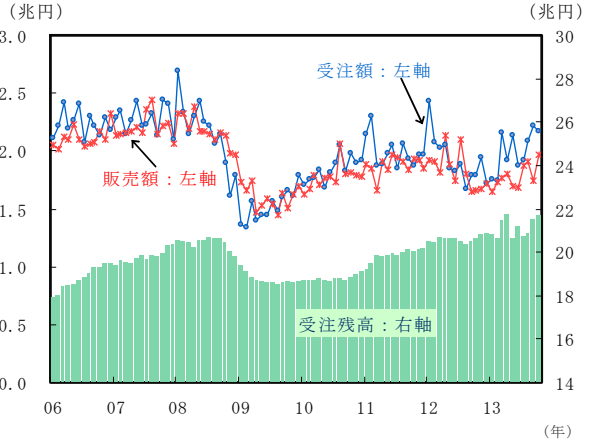
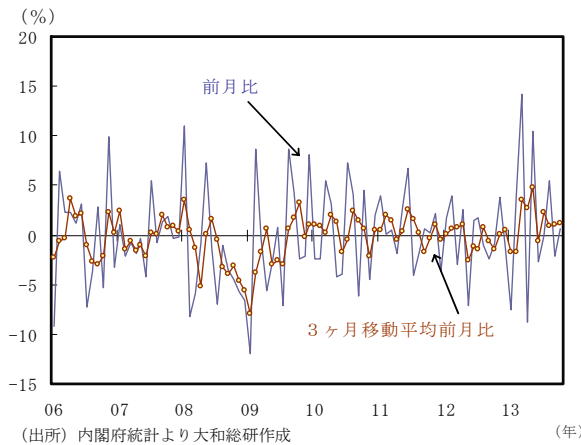
図表5：機械受注の民需と名目設備投資（季節調整値）



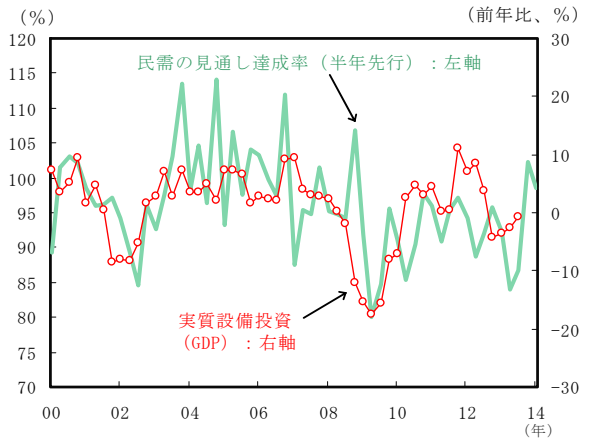
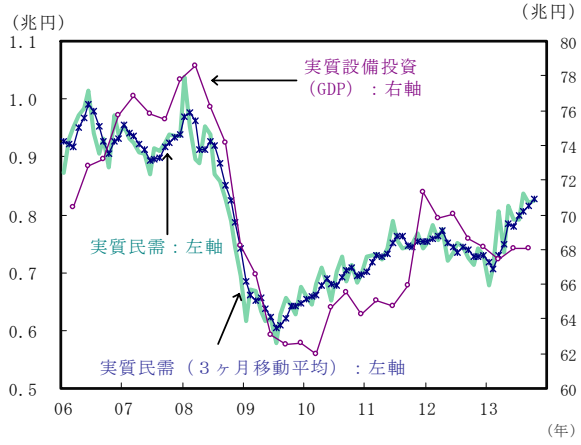
(注) 太線は3ヶ月移動平均線。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比） 船舶を除く合計（季節調整値）

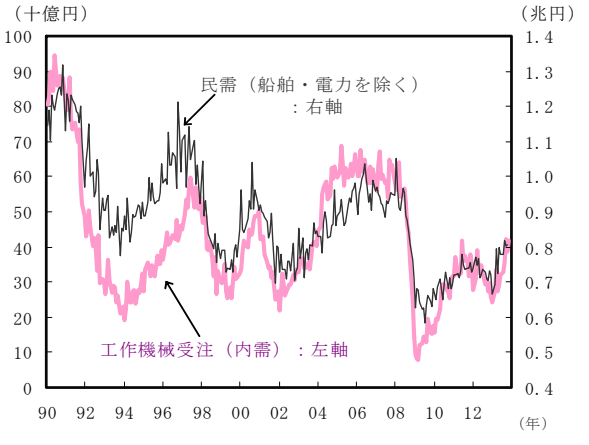
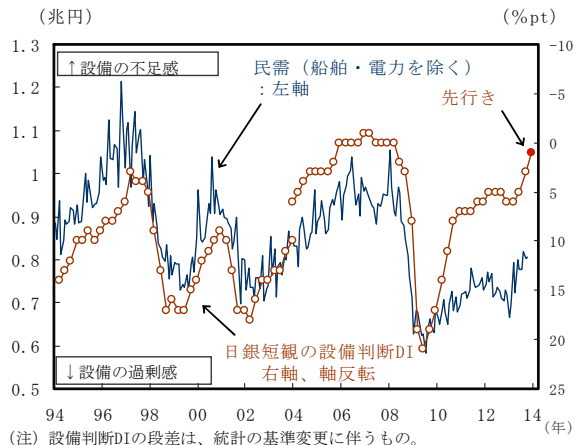


実質機械受注と実質設備投資（季節調整値） 民需（船舶・電力を除く）の達成率と実質設備投資



(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。
 (出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

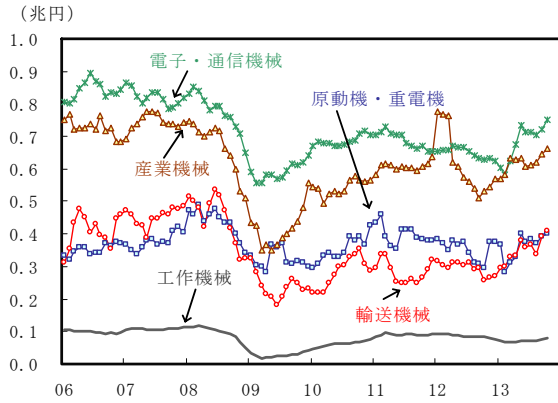
機械受注（季節調整値）と設備判断DI 機械受注と工作機械受注



(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。
 (出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

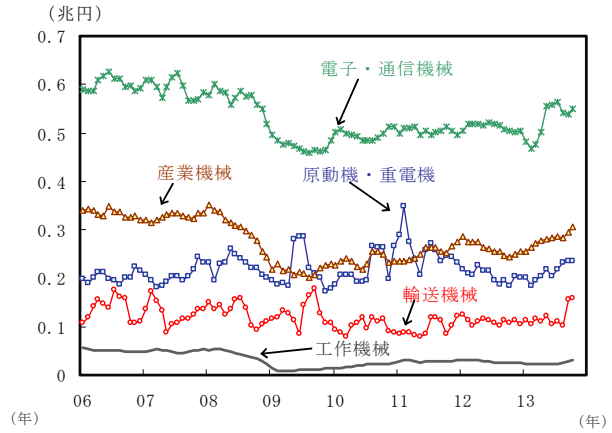
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

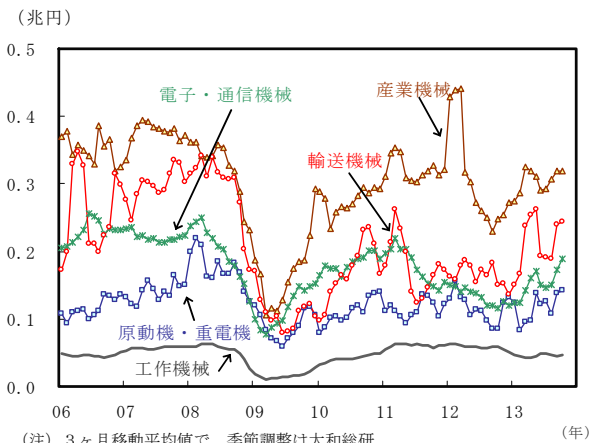


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

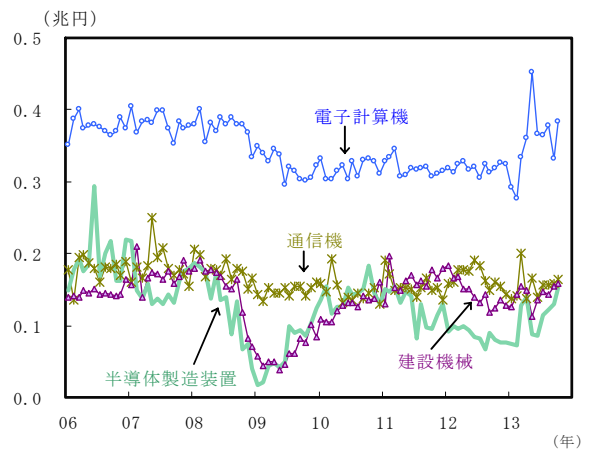


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

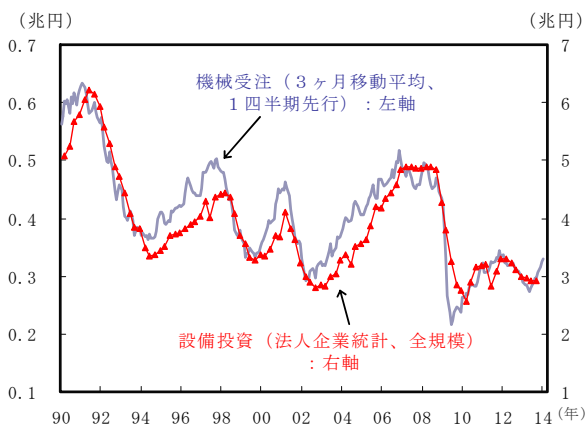


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

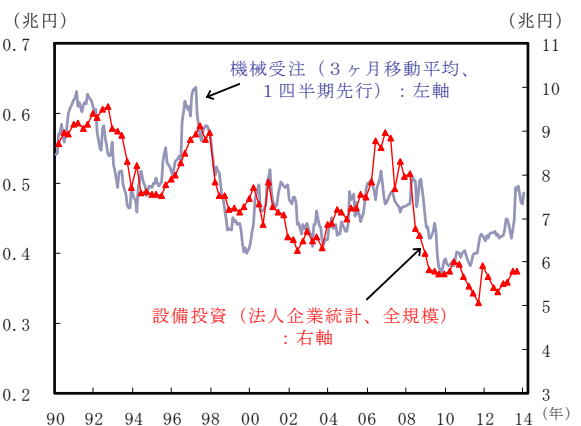
機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成